

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教務部	<p>1. 生徒が授業起立を確立し、基本的学習習慣を身につけ、基礎学力が定着し向上するよう取り組みます。</p> <p>(1) 授業準備とベル着・ベル席の徹底を図るとともに、基礎学力テストを定期的に行い、学力の定着を計る資料とします。</p> <p>(2) 始業チャイム時に全員授業の準備ができていることを目指します。また、基礎学力テストを年間3回実施し、個票を作成して学力定着の度合いを計り、クラスの半分以上の生徒の成績向上を目指します。</p>	<p>(1) 1年生は当初学習習慣が身につけていない生徒も見受けられたが、教員間の情報交換を密にし、授業規律の確立に努めた結果、学年末ではかなり解消された。</p> <p>(2) 長期休業明けに基礎学力テストを実施した。更にはその一環として、「学び直し学習」を始めた。</p>	<p>まだ完全に授業規律が確立されているとは言えない面もあるので、次年度も徹底して指導していきたい。</p> <p>基礎学力テストのデータはとれたが、成績分析は出来ていない。</p> <p>基礎学力講座を継続的に実施するため、学び直し学習を導入したが、次年度は朝読やSHRなどの時間活用も考えていきたい。</p>
	<p>2. 校舎制の特徴を生かした教育活動の実践に取り組みます。</p> <p>(1) 「総合的な学習の時間」等を活用した生徒交流、「公開授業」における各校舎教員の相互参観などを行い、校舎制を推進します。</p> <p>(2) 年間3～4回の生徒交流を行います。また、常勤教員70%以上が他校者の公開授業・授業研究に参加します。</p>	<p>(1) 9月の授業公開時に各校舎教員の相互参観ができたが、教員の参加率は50%を下回った。</p> <p>(2) 生徒交流は、生徒会活動として2回は交流できた。総合学習とマラソン大会での交流は物理的理由により実施出来なかった。</p>	<p>授業公開はある程度の成果はあると思う。次年度は更なる研修が出来るよう工夫したい。</p> <p>授業公開への保護者の参加が少ないので、参加しやすい方法を考えたい。</p> <p>生徒会以外の部分での交流が可能かどうかを模索していきたい。</p>
生徒指導部	<p>1. 遅刻者の減少を最優先に取り組みます。</p> <p>(1) 毎朝の校門指導において、遅刻生徒はもちろん、遅刻直前の生徒に対してもきめ細かく指導していくとともに、担任や保護者とも連携・連絡を取り指導を図ります。</p> <p>(2) 遅刻者数前年度比10%の減少を目指します。</p>	<p>(1) 毎朝、職員全員で登校指導を行った。遅刻・欠席等で連絡のない場合は、保護者と連絡を取り、指導の徹底を図った。</p> <p>(2) 今年度は遅刻数が増加に転じ、目標を達成することができなかった。回数が30回に達した生徒も2名おり、家庭とのより一層の連携が必要である。</p>	<p>今年度はグループで登校する生徒が一人遅れると全員送れるケースが目立ったので、その場合の指導を徹底する。</p> <p>遅刻は家庭の協力が得られないと減少しないので、担任とも連携しさらに家庭への協力を要請する。</p>

進路指導部	<p>1. 生徒が希望どおりの進路先を決定できるよう取り組みます。</p> <p>(1) 進路ガイダンスの実施、きめ細かい面接指導、企業視察研修会の実施、オープンキャンパス等への参加、積極的な求人開拓などを通じて生徒の進路実現を図ります。</p> <p>(2) 卒業生全員が、就職・進学ともに自分自身の希望どおりの進路を決定することを目指します。</p>	<p>(1) 積極的に求人開拓を行い、新しい求人先が見つかり、求人数としては昨年に比べ5%以上増やすことができた。</p> <p>(2) 就職・進学ともに100%進路先を決定することができた。</p>	<p>企業等の情報を得ることができるので、来年度は求人開拓専門員の配置を求めている。</p> <p>面接練習に積極的に取り組む生徒が多く、上達していく様子がよくわかり、自信に繋がるので継続が必要である。また来年度は業者の協力も得て、面接指導を強化していきたい。</p>
	<p>2. 本校舎独自のキャリア教育プログラムの確立に取り組みます。</p> <p>(1) 生徒が自分自身の将来を考え、働くことの意義を考えていけるよう、基礎学力模試、進路講演会、学校(大学等)説明会などを実施するとともに、本年度新たにインターンシップの実施に取り組みます。</p> <p>(2) 就職希望生徒のインターンシップ参加率60%を目指します。</p>	<p>(1) 業者、地元企業などの協力を得て、進路ガイダンスの回数を大幅に増やし、内容も生徒の実態に即したものができた。</p> <p>(2) インターシップに関しては、昨年は2名の参加であったが、今年度は福祉関係希望者を中心に12名が参加した。</p>	<p>来年度も先輩体験談、企業見学、面接練習を継続したい。2年生の第1回進路面談を実施。早期からの意識付けをしていきたい。</p> <p>より多くの生徒にインターンシップへの参加を呼びかけていきたい。また度会校舎独自のインターンシップの形を作っていきたい。</p>
人権教育	<p>1. 一人ひとりの「気づき」と「他の人との違い・思いやり」を大切にした指導案をもとに、本校舎生徒に即した人権教育に取り組みます。</p> <p>(1) 各学年に応じたテーマを設定し、人権教育推進小委員会を中心に指導案の検討を行い、LHRや総合的な学習の時間において、人権授業を展開・実践します。</p> <p>(2) 生徒に対しては学習を振り返るアンケートを実施するとともに、教員へもアンケートを実施して情報の共有化を図り、組織的・系統的に指導できたか検証します。また、いじめ等を主な理由とする退学・休学0名を目指します。</p>	<p>(1) 年々、生徒たちは落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。昨年度に続き、人権教育の公開授業を行い、地元小学校、中学校の先生方からも貴重なご意見をいただき、その後の取組に反映することができた。</p>	<p>一年次には“よりよいクラスづくり”を主テーマにいじめのないクラスを目指すLHRを展開し、二年次には障がい者差別について学習しつつ、様々な差別について自分の問題として考えを深める取組を行った。また、三年次には、差別の実態と差別に対する社会の取組について学び、差別のない社会を構成する一員として必要な学習を行った。しかし課題として、一部の生徒であるが、人権LHRでの学習内容について理解が浅いものもみられる。個々の人権感覚を十分に養うためには、個別に対応する取組も必要になると考えられる。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	<p>小規模校の利点を生かして一人ひとりに行き届いた学習指導ができる。また、情報の共有化も迅速にできる。</p> <p>地域の各機関との連携、交流が行われ、地域から学ぶことができている。また、情報発信も行っている。</p> <p>教職員一人ひとりの意見が反映されやすく、目標に対してすぐに行動できる体制ができている。</p>
弱 み	<p>小規模校のため教職員一人ひとりの役割分担が多く、会議等で生徒と接する時間が減少している状況がある。</p> <p>学習者、保護者などの要望や満足度を把握する仕組みが不十分で、組織力向上への取組につなげにくい。</p> <p>地域との連携はできているが、固定化されている面がある。</p>

(3) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<p>(1) 地域とともに発展する地域の学校として、地元中学生に信頼される学校づくりを目指す。そのため、中学生及び中学校教員等への情報発信のため、学校訪問等を継続して行うとともに、紹介資料の改善や充実に努める。地域に根ざした本校舎のあり方について地元中学校を始めとする関係機関と協議しつつ、生徒の定数確保に努める。</p> <p>(2) 校舎制については、本年度「公開授業」における各校舎教員の相互参観を行ったが、次年度以降もさらに活発にして活性化を図っていく。生徒交流については、本年度合同で実施できなかった「マラソン大会」を次年度以降実施していくとともに、現在行っている遠足や文化祭での交流の充実に図り更なる交流の可能性を探っていく。</p> <p>(3) 生徒の基礎学力の育成・向上・充実のため基礎学力の定着に取り組んできたが、次年度は新たに導入したトレーニングシステムを活用し、より一層の充実に努める。生徒が自信を持ち、社会で通用する学力をつける基盤を創るため、教員間の授業参観をより積極的に行い、資質向上に努める。また、インターンシップの計画的な実施を目指す。</p>

